

n.

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

自己評価報告書

令和3年5月1日現在

学校法人 高村育英会
国際デュアルビジネス専門学校

令和3年6月1日作成

目 次

本書の使い方	1	基準4 学修成果	25
1 学校の理念、教育目標	2	4-13 就職率	26
2 本年度の重点目標と達成計画	3	4-14 資格・免許の取得率	27
3 評価項目別取組状況	4	4-15 卒業生の社会的評価	28
基準1 教育理念・目的・育成人材像	5	基準5 学生支援	29
1-1 理念・目的・育成人材像	6	5-16 就職等進路	30
基準2 学校運営	8	5-17 中途退学への対応	31
2-2 運営方針	9	5-18 学生相談	32
2-3 事業計画	10	5-19 学生生活	34
2-4 運営組織	11	5-20 保護者との連携	36
2-5 人事・給与制度	13	5-21 卒業生・社会人	37
2-6 意思決定システム	14	基準6 教育環境	39
2-7 情報システム	15	6-22 施設・設備等	40
基準3 教育活動	16	6-23 学外実習、インターンシップ等	42
3-8 目標の設定	17	6-24 防災・安全管理	44
3-9 教育方法・評価等	18	基準7 学生の募集と受入れ	46
3-10 成績評価・単位認定等	21	7-25 学生募集活動	47
3-11 資格・免許取得の指導体制	22	7-26 入学選考	49
3-12 教員・教員組織	23	7-27 学納金	51

基準 8 財 務	5 2
8-28 財務基盤	5 3
8-29 予算・収支計画	5 5
8-30 監査	5 6
8-31 財務情報の公開	5 7
基準 9 法令等の遵守	5 8
9-32 関係法令、設置基準等の遵守	5 9
9-33 個人情報保護	6 0
9-34 学校評価	6 1
9-35 教育情報の公開	6 3
基準 10 社会貢献・地域貢献	6 4
10-36 社会貢献・地域貢献	6 5
10-37 ボランティア活動	6 7
4 平成 28 年度重点目標達成についての自己評価	6 8

本書の使い方

- 1 本書は平成 25 年 3 月、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）に示された「項目別の自己評価表(例)イメージ」及び「自己評価における評価指標・観点・参考資料一覧表(イメージ案)」などを参考に全体を構成しました。
また、評価項目は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構(以下「機構」という。)がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」を適用しています。
- 2 従来の「評価項目別取組状況」に「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」を加えることにより、ガイドラインに示されている PDCA を活用した自己評価を進めることができるようになっています。
- 3 ガイドラインでは、「項目別の自己評価表(例)イメージ」において取組状況を 1 から 4 の評語を用いて自己評定する様式を例示しています。このことから、本書でも「評価項目別取組状況」の小項目毎に評定欄を加えました。評語の考え方の例は、以下のとおりです。但し、評定については学校ごとの考え方により実施しない学校においては評定欄を削除してお使いください。

※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

- 4 本書は、学校関係者評価を円滑に進めるために、記述のうち「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」など部分的にピックアップして評価を行うことができるように構成していますので、学校関係者評価実施においても活用できます。
- 5 本書はワード形式で作成しています。学校の考え方により適宜変更して使用してください。ご不明な点につきましては、機構事務局までお問い合わせください。

連絡先 03-3373-2914 info@hyouka.or.jp

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
「人間教育」「実践教育」「国際教育」という3つの教育理念とそれにより「学生」「保護者」「社会」の3つの信頼の獲得を建学の理念としている。 本校では「心からのおもてなし精神」を育み、社会の要請に応えうる人材の育成を目的としている。 今後も将来にわたり一貫して、国際化時代に活躍できるスペシャリストの育成を目指している。 このような理念・目的・育成人材像等を全職員が理解し、意識させるため、令和2年度事業計画の立案に参加させ、会議等で、周知徹底を図ってきている。	以下の三つを基本的な教育目標とする 1 人間教育 どの業界、どの企業においても嘱望されている人材として必要な、豊かな人間性そして人格の向上に重点を置いた教育システムにより人材育成にあたる。 2 実践教育 どの業界、どの企業においても嘱望される人材に必要な、知識と行動力を備えた人材育成にあたる。 その実現のため、企業との連携を図り、企業実習をカリキュラムに取り入れている。 3 国際人教育 当校の INTERNATIONAL COLLEGE OF の冠名のとおり、日本を知り、世界を知る人々の融合の中で国際的センスを養う。

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

2 本年度の重点目標と達成計画

令和3年度重点目標	達成計画・取組方法
・教務・学生募集・就職を新体制のもと業務の見直しを行い、各業務の更なる効率化と仕事の質の向上を図り、学生満足度に繋げる。 ・マネージャー職を通じた部署連携・学校連携を強化し、学校グループ全体の魅力度と職員の実務レベルの向上に努める。 ・社長・経営者・リーダー育成を取り入れたカリキュラムを運営・告知し、他の競合校との差別化を図る。	学生募集目標 ・自校媒体の発信力強化 ・インサイドセールス力の強化 ・高等学校・日本語学校との連携 ・自校イベントの魅力度アップと集客力アップ 教務目標 ・現役講師の起用と企業との連携 ・カリキュラム内容の見直し・教科目刷新 ・学校行事の見直し ・授業アンケートの強化（在校生・卒業生） ・授業見学による講師チェック体制 就職目標 ・内定率 100%達成 ・インターシップの強化 ・学生情報管理の徹底 ・社会人マナーの醸成

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「人間教育」については、挨拶・整理整頓・清潔運動、校内美化、ボランティア活動の奨励などにより、社会人基礎力の向上を図っている。進歩はみられるが、留学生がさらに増加し、日本の習慣、マナーの習得などに重点を置いている。 「実践教育」については、「インターシップ」の充実により、実践的教育の向上を図っている。インターシップ先企業により、内容、方法等が異なり、課題も多い。 「国際教育」については、留学生の増加により、校内での国際交流は盛んになっている。 留学生の増加に伴い、留学生が卒業後日本で就職するものも増加し、日本の労働力の国際化に貢献している。	留学生に日本の文化を理解させ、マナーを身に付け、日本社会に溶け込めるようにする。 留学生の企業実習を見直して「インターシップ」へ。企業との連携を深め、「インターシップ」と学校での「座学」の連動を図っていく。 カリキュラムの見直しを行い、より実践的な教育を行う。 留学生が多いという本校の特徴を活かし、より国際的教育を行っていく。	留学生の増加 留学生のインターシップの実施

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理 念 ・ 目的 ・ 育成人材像は、定められているか	☐ 理念に沿った目的・育成人材像になっているか ☐ 理念等は文書化するなど明確に定めているか ☐ 理念等において専門分野の特性は明確になっているか ☐ 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか ☐ 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか ☐ 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか ☐ 理念等の浸透度を確認しているか ☐ 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	4 4 4 4 4 4 3 3	学校案内、ホームページに明記し、周知徹底を図っている。	明確化されてはいるが、すべての教職員に浸透しているとは言えない。	職員会議、講師会他の会議、ミーティング等で浸透を図っていく。	学則、就業規則 学校案内 ホームページ
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	☐ 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか ☐ 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	4 4	インターシップを実施して、適合を図っている。 協力を得ている。	インターシップ先が限られ、内容、時間数が異なる。 。	インターシップ先が限られているため、学科名にふさわしい実習先の開拓を行い、実習の有給化を図る。	教育課程表 シラバス 実習実施要項 教育課程編成委員会記録

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	☐ 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか ☐ 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか ☐ 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか	3 4 3	実習に当たっては関連業界の協力を得ており、教育課程編成委員会において、外部委員の意見を聞いている。	関連業界との連携の強化、意見の反映。	教員採用、教材の開発に協力体制をとる。	教育課程編成委員会記録
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	☐ 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか ☐ 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	4 4	日本版デュアルシステム、インターシップにより、企業実習重視のカリキュラム編成をしている。	実習内容が企業により異なっている。	有給企業実習の実施により、「やる気」を持たせる。	教育課程表 シラバス 実習実施要項
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	☐ 中期的(3～5年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか ☐ 学校の将来構想を教職員に周知しているか ☐ 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3 3 2	ビジョン50の策定し、実現を図っている。	変化する社会情勢、ニーズに合った学校運営ができていない。	マネージャー制度の導入。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校の理念は明確になっており、日本版デュアルシステム、インターシップによる、企業実習を重視したカリキュラム編成を特徴としている。さらに企業実習からインターシップへ変革していき、関連業界との連携を深め、求められる人材育成に努めていく。	留学生の有給企業実習の実施している。 企業実習からインターシップへ

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	谷口 久光
--------	-----------	-------	-------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全学生において日本人が 1 割・留学生が 9 割と、依然として外国人留学生が全学生に占める割合は大きい。 日本人については入学者 2 名という厳しい状況であり、危機的状況である。高校生の獲得を目指し、教育内容の充実、発信力の強化、施設設備の充実に着手し少子化に立ち向かい、入学者復活に努めたい。 留学生は新型コロナウイルスの影響もあり、受験者が大幅に減少し、入学者は昨年対比で 70 名減となった。ホテル・航空業界への見通しに不安を感じた入学対象者が受験を控えた等の要因が考えられる。 減少した日本人・外国人留学生をいかに回復させるかが財務体質改善の課題である。	既存のカリキュラムや募集活動の見直しを行う。 カリキュラムについては例年目の前の就職やホテルの実務、観光地理がメインだったものを、ホテルブライダル代表職種やホテルカフェ起業、リーダーシップ論、エアラインマナートレーニング、航空サービス実習など既存科目のリニューアルと新規科目の開講で学生数回復を目指す。 また日本人と外国人留学生が共に学べるメリットを強調し、国際感覚が身に着くこと、日本人とともに学べることの強みを発信していく。 就職を目指し、これまでは検定試験に重きおいていたものを、企業実習の強化を通じて学生の経験値を豊かにしながら企業にも当校の良さを感じて頂き連携強化につなげていきたい。	日本人・外国人留学生とも入学者減少 カリキュラム・募集活動の見直し・リニューアル インターンシップ（有給）の強化

最終更新日付

2021 年 6 月 1 日

記載責任者

西端 茂和

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	☐ 運営方針を文書化するなど明確に定めているか ☐ 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか ☐ 運営方針を教職員等に周知しているか ☐ 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	4 4 4 3	運営方針を事業計画書により明確に定めている。 年度末に事業計画の策定と発表を行い、周知と実施を行っている。年度初めに前年度の事業報告を発表している。	目標・運営方針が職員一人一人に浸透しているとは言えない。	朝礼や定期的なミーティングを通じて、目標と事業方針を再確認していく。きちんと浸透しているか理解度を確認する。	事業計画書 事業報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校改革の意識を一人一人の持たせ、運営家核と目標を明確化し実現している。	職員の理解度を確認し、一人一人の担当業務と学校目標を明確に推進している。

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	西端 茂和
--------	----------------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	☐ 中期計画（3～5 年程度）を定めているか	4	中期計画は明確に定められており、単年度の実業計画についても定められ進捗を管理・適宜見直しを行っている。明確化され、軌道修正する仕組みがある。	中期計画の遂行と管理。事業計画の進捗管理、見直しを実施し、実現する。	中期計画の周知徹底。進捗管理、見直しの実行。	事業計画書
	☐ 単年度の実業計画を定めているか	4				
	☐ 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか	4				
	☐ 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか	4				
	☐ 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	3				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期計画と単年度計画は明確化され、事業を推進している。 法人内で見直しをかける仕組みがある。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	西端 茂和
--------	----------------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	☐ 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか ☐ 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか ☐ 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4 4 4	理事会、評議員会は適切に開催されている。 理事会や審議においては議事録の作成を行い、寄附行為は適切に改正されている。	適切である。	今後も適切に運営していく。	寄附行為 理事会議事録 評議員会議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	☐ 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか ☐ 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか ☐ 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか ☐ 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか ☐ 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか ☐ 組織運営のための規則・規程等を整備しているか ☐ 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4 4 3 3 4 3 3	理事と校長により、随時校長会議を開催している。 組織や業務体制についても組織図や業務担当表を作成し業務分掌を明確化している。 決済方法等も寄附行為に則っている。 就業規則により、諸規則は定められている。	規則、規定は整備されている。	必要に応じて改善する。	寄附行為 就業規則 組織図

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか	3	事務職員の意欲、資質向上への取組みとして、組織改革を実施している。	個々のモチベーションをいかにあげていくか。	適材適所の業務配置、評価の方法	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会、評議員会、校長会議は適切に開催されており、寄付行為も適切に定められている。 また、就業規則も整備されている。事務職員の意欲、資質向上への取組みは、組織改革、職務分掌の明確化により行っている。	組織改革、職務分掌の明確化。

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	西端 茂和
--------	----------------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	☐ 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか	3	就業規則を基本とし、各分野の諸規則は整備済みである。	定期採用を行わず、適宜欠員や必要に応じて採用しているため、うまく採用できない場合がある。	適材適所の配置を行う。人事の変更にスピーディーに対応できるように求人関連の業務も準備を進めておく。	就業規則 賃金規定
	☐ 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか	3				
	☐ 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか	4				
	☐ 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか	3				
	☐ 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	3				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就業規則、賃金規定は整備されているが、定期的な採用を行っていないため、適正な人材確保ができているとは言えない。	

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	西端 茂和
--------	-----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	☐ 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか ☐ 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか ☐ 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4 4 3	理事会、評議員会、法人本部、校長会議、職員会議等により意思決定する。 その他稟議制度も整備されている。	意思決定システムは整備されているが、規則・規定等で明確になっていない部分がある。	方針を明確にし、意思決定を迅速に行う。	寄付行為 決裁権限

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定システムは整備されており、直面している諸問題に対し、適切に意思決定できている。	部門別ミーティング、校長会議、職員会議等により、意思決定を速めている。

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	西端 茂和
--------	----------------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	☐ 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか ☐ これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか ☐ 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか ☐ データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか ☐ システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	4 3 3 3 4	学籍管理システム・学生募集システムを導入し適切に運用されている。	旧システムの情報を管理・移行	各システムの有効活用を進めていく。 旧システムの情報のデジタル化を行い情報の保存を行っていく。	学籍管理システム 学生募集システム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学籍管理システムと学生募集に特化したシステムを導入することにより、学生の管理を充実させ、業務も効率化していく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	西端 茂和
--------	----------------	-------	-------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
目標の設定については、事業計画等により明確になっている。また、教育課程編成委員会の実施により、外部の意見も取り入れている。 教育方法については、教育理念でもある、実践教育を実現するため、企業実習を重視している。 コロナ禍での実習の在り方に留意し、安全に企業実習を努めている。 授業の評価については、授業視察を実施し、教員との面談、学生アンケートを通じて、行っている。より効果的な授業運営に努めている。 成績評価、単位認定については、学則に定め、厳格、公正に行っている。 資格取得体制は、教育課程で明確になっており、指導体制は整っている。 専門的知識、技能を持った教員を採用しているが、組織、研修体制は途上である。	企業との連携を強化し、より実践的な授業運営に努めていく。 学生や企業の声、社会のニーズを反映した授業内容に整備していく。 より一層、就職に強い学校創りを進めていく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	大沼 由実代
--------	----------------	-------	--------

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	☐ 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか ☐ 職業教育に関する方針を定めているか	4 4	教育課程編成委員会と連携し、編成方針や職業教育について協議の場を設ける。	コンセプトに合ったカリキュラムの構築と改良	具体的な記述および委員会実施での定期的な見直し。	教育課程表
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	☐ 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか ☐ 教育到達レベルは、理念等に適合しているか ☐ 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか ☐ 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	4 3 3 3	目標に向けたカリキュラム編成。 教育理念に沿った学生仕上がり像とカリキュラムを構築。	レベルの向上 教育到達レベルの整備	レベル別クラス編成 習熟度の把握	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業教育に力点を置き、即戦力のある、就職に強い人材の育成に向けて、学校全体で取り組んでいく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	大沼 由実代
--------	----------------	-------	--------

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	☐ 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか	4	専門・一般科目を適切に配分。	実習先企業によって、ばらつきがある。	実習先との連携を深める。	教育課程表 教育課程編成委員会議事録
	☐ 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか	3		講師とのコミュニケーション機会の拡充	講師会・講師面談を数次実施。	
	☐ 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか	4		コロナ禍での実習機会の確保と実施の判断	企業と情報交換など積極的コンタクトを図る	
	☐ 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか	3	授業時間・単位数を明示。	シラバス内容の検証	授業内容・到達目標の見直しを図る。	
	☐ 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか	4				
	☐ 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか	3				
	☐ 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか	4	学科ごとに目標を定め、目標達成に向けてカリキュラム編成を変更。			
	☐ 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか	4		全講師にシラバス作成提出を義務付け、授業内容を管理している		
	☐ 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4		授業評価アンケート 講師面談		
		4	企業実習の実践。			

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	☐ 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか ☐ 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか ☐ 授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているかを ☐ 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか	4 3 3 3	学科ごとに講師会を開催し、カリキュラム内容を確認。 企業実習での内容と関連するようにシラバスを確認している	備品・教材・機材などの管理 教育課程の定期的な見直し。	学習状況等を鑑み、見直しを定期的に行う。	シラバス 実習評価表
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	☐ 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか ☐ 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか ☐ 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4 3 4	実習先企業より、評価表を作成してもらっている。 評価委員会 卒業生・企業アンケートの実施	効果測定 卒業生・企業担当者との交流 対象者選定、実施時期、調査結果・集計の管理	効果測定の実施 定期的に交流会を実施する。	実習評価表
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	☐ キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか ☐ キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	4 3	就職指導担当者との連携。 就職担当者と講師の連携。教育内容の構築。	アンケート 一丸となる体制作り	アンケートの実施 定期的な講師会の実施。	シラバス

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料		
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	企業担当者・卒業生との面会時に意見交換。	効果測定	就職先・卒業生との交流、連携。			
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか	3	授業見学、 授業担当者との面談。 アンケートの実施。	フィードバック。 アンケート内容の 確認、検証。	授業見学・巡回。 効果測定の実施。 学生面談による聴取。			
	□学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか	4						
	□授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか	3	評価委員会	個別面談の機会確保				
	□教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	3	授業内容を反映した 運営方針を講師会内で 説明。					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
アンケート結果や授業見学等のフィードバックを行い、授業満足度、授業内容の改善、効果の高い授業運営の構築に努めていく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	大沼 由実代
--------	----------------	-------	--------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	☐ 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか ☐ 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか ☐ 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	4 4 3	学則、学生便覧に明示。 評価の方法については学生、及び講師に公示している。	入学前の履修、他の教育機関の履修については明文化されていない。	規定の整備	学則 学生便覧
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	☐ 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	学校で奨励しているコンテスト等は職員が引率している。	準備・手配・評価基準などの整備		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価の基準については公開しているので客観性・統一性を確保していると思う。 他の教育機関の履修認定については規定の整備を進めていかなければならないと考えている。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	大沼 由実代
--------	----------------	-------	--------

3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	□取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか	4	新入生オリエンテーションで説明。	取得のための効果的な取り組み	講師と連携、意識改革、対策課題の検討	シラバス 資格試験奨励制度
	□資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4	授業科目に導入している。			
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	□資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか □不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	4 4	課題作成、試験前対策、認識の共有	指導体制の未整備		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
どうやって合格率を上げるか、合格するために授業をどうするか要検討	

3-11 (1/1)

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	大沼 由実代
--------	----------------	-------	--------

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	□授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか	3	履歴書、職務経歴書等により資格・資質・経験を把握。 学校取り組みへの理解・人柄・意欲なども重視	資格・資質が不明瞭。	規定の明示。	履歴書 職務経歴書 採用情報
	□授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか	3				
	□教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか	4				
	□教員採用等人材確保において、関連業界等との連携しているか	4				
	□教員の採用計画・配置計画を定めているか	4				
	□専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか	3				
	□教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか	3				
	□教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	4				

3-12 (1/2)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資 質向上への取組 みを行っている か	☐ 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか ☐ 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか ☐ 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか ☐ 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3 3 3 2	教員研修の実施 講師と意見交換・コミュニケーション 外部研修への参加	研修制度・ キャリア支援・開発の 不足	関連業界との連携強化。 研修の充実 研修制度の確立	
3-12-3 教員の組 織体制を整備し ているか	☐ 分野毎に必要な教員体制を整備しているか ☐ 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか ☐ 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか ☐ 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか ☐ 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	4 3 3 3 3	専任・非常勤教員を交え 講師会を実施。 業務分担は業務分掌表 を策定の上実施してい る。 カリキュラム編成にあ たっては教務・学生募 集・就職の意見を集約し 策定している。	連携・協力体制の不十分	教員組織の体制の整備。	

3-12 (2/2)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専門的知識、技能を持った教員の確保に努めている。 研修制度・キャリア開発、支援の整備が不十分である。 教員組織の整備は途上である。	

最終更新日付	2021 月年 6 月 1 日	記載責任者	大沼 由実代
--------	-----------------	-------	--------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職率はコロナ禍の影響により低下した。求人数が減少し、アフターコロナに期待するほかない。 引き続き、情報収集に努め、優良企業への就職を目指していく。留学生は日本語能力の向上に努め、就職率アップにつなげていく。 資格取得については、資格そのものお見直しを行い、社会のニーズに合った、カリキュラム編成を行っていく。 卒業生の就職先企業へは、学校法人として訪問し、卒業生の評価、学校の評価を確認し、今後の企業連携、就職につなげていく。	コロナ禍により観光業界は大きな影響を受けている。しかし、アフターコロナを見据え、社会のニーズに合った人材育成に努めていく。 就職に強い学校づくりを進めていくため、資格取得にとらわれず、社会人基礎力の向上、語学力の強化に努めていく。 卒業生の評価だけでなく、学校としての評価を上げるため、努力していく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	大沼 由実代
--------	----------------	-------	--------

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	☐ 就職率に関する目標設定はあるか ☐ 学生の就職活動を把握しているか ☐ 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか ☐ 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか ☐ 就職率等のデータについて適切に管理しているか	4 4 4 2 4	、新型コロナウイルスの影響が内定率に顕著に表れている。令和2年度結果では日本人は66.7%、留学生は71.1%、令和3年度6月では日本人20%留学生は5%となっている。対面対応は難しいがオンラインを活用して説明会や相談会を実施するようにしている。	求人票閲覧やその管理並びに進路管理がアナログな部分もあるため、管理システムの導入や管理方法の見直しを検討する必要がある。また、学生が直接企業とメールでのやりとりをする機会も多いが、プライベートアドレスを利用している状況であるため、就職活動用のアドレスを取得させる。	キャリタス UC などの無料で使用できる求人票管理システムを導入する。また、全学生にGmail アドレスを作成させ、操作方法がわからない学生に向けた操作説明等を行なう。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
求人数の大幅減少により、一企業に対する応募数が増加しており、選考のハードルが例年より上昇している企業も見受けられる。留学生採用も N1 や N2 必須という企業が多いため資格取得の重要度が増している。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	鈴木 康之
--------	----------------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	□資格・免許取得率に関する目標設定はあるか	4	到達目標を掲げている	合格実績と指導方法の関係性の確認 合格率を上げる指導方法の確認	指導方法の整備 レベル別のクラス編成	
	□特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか	3	授業枠外の補講は考えていない（授業で完結）			
	□合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか	3				
	□指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
レベル別のクラス分けを図り、レベルに合った学習・指導方法を整備する	

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	大沼 由実代
--------	-----------	-------	--------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	□ 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか	3	人事課・採用担当者から卒業生の近況確認、	企業訪問できていない	Zoom を積極的活用（面談、打合せなど）	
	□ 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	卒業生アンケート実施	卒業生と交流不足	卒業生を招待したイベント企画	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人として卒業生の就職先企業へ訪問し、卒業生、学校の評価を確認し、今後の企業連携、カリキュラム編成の参考にしている。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	大沼 由実代
--------	----------------	-------	--------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職支援は、就職課を中心に行ってきたが、組織を改編し、就職担当と、担任、教務が連携して行っていく 中途退学防止については、情報を共有し、個別面談の実施等により、未然に防ぐ努力をしている。しかし中途退学者はなかなか減少していない。 学生相談は専門のカウンセラーは設置していないが、担任、教務が中心となり、職員全員で行っている。 保護者との連携、卒業生、社会人との対応はできていない。	就職、中途退学防止、学生相談については、一体として考えるものであり、職員それぞれが、学生とのコミュニケーションをとることを心掛けなければならない。組織の改編を行い、マンネリを打破していく。 担任による個人面談を年2回行っているが、就職においては、就職に関する面談、教務においては、出席不良、成績不良、学費等に関する面談を随時行っていく。	

最終更新日付

2021年6月1日

記載責任者

鈴木 康之

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	☐ 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか ☐ 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか ☐ 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか ☐ 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか ☐ 就職説明会等を開催しているか ☐ 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか ☐ 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	3 4 4 4 3 4 4	職員内での連携体制や情報の共有は随時行っているが、手作業での追跡作業のため情報の更新に時間を要している。企業間との連携に関しては説明会やインターンシップといった形で就職に繋がる取り組みを随時行っている。ホテルや飲食業界の募集がすくないこともあり、日本人学生は他業界を志望するが、他業界に関する情報提供が十分に行なえていないのが現状である。	新型コロナの影響で、観光産業等の求人が悲惨な状況となっており、他業種の調査や開拓も必要。また、留学生に限っては専攻以外の在留許可も視野に入れる。	学生のスマートフォンやPCを有効活用していけるようなシステムの導入や指導の強化	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職等進路指導体制は整備されており、担任と、就職担当との連携も取れている。情報も共有されており、説明会も実施している。業界との連携もある程度できているが、個別相談や就職支援ツールの活用が十分に行なえていない。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	鈴木 康之
--------	----------------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	□中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか	4	毎月中途退学者数を職員全員で確認	担任など個人の負担が多くなっている	担任だけでなく就職担当者などと手分けして面談を行い行う。また、対面だけでなくLINEなどを駆使し学生とのコミュニケーションの場を増加させる。	
	□指導経過記録を適切に保存しているか	4	紙媒体とオンラインで保存を行っている。			
	□中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか	4				
	□退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	職員全員で情報共有を行い、担任以外の職員とも面談を行っている。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中途退学しそうな学生に関しては、職員で情報共有を行い定期的な面談や家庭訪問などを起こっている。	

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	高島 晴花
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	☐ 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか ☐ 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか ☐ 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか ☐ 相談記録を適切に保存しているか ☐ 関連医療機関等との連携はあるか ☐ 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	1 1 1 4 1 3	担任制度を設け個別面談を行っている。 紙媒体とオンラインで保存を行っている。 相談があった場合には、対応を行っている。	専任カウンセラーの配置はなく、医療機関との連携も行っていない。	専任カウンセラーの配置を検討していく。また、学生との面談方法についてもやり方を職員で話し合い改善を行っていく。	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	☐ 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか ☐ 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか ☐ 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか ☐ 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	4 4 4 4	就職の授業を行い、指導・支援を行っている。 紙媒体とオンラインで保存を行っている。	留学生増加に伴い、相談者の不足が懸念されている。	就職担当者など他の担当者とも連携し、留学生管理を行う。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専任のカウンセラーに関しては、今後も検討を行っていく。 留学生管理に関しては、今後も他の担当者とも連携を行い、指導・支援を行っていく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	高島 晴花
--------	----------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	☐ 学校独自の奨学金制度を整備しているか ☐ 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか ☐ 学費の減免、分割納付制度を整備しているか ☐ 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか ☐ 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか ☐ 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	4 3 3 3 3 2	奨学金制度の実施。 減免制度の実施。 希望者には入学前に公的支援制度を含めた経済的支援制度についての資料を配布している。	学生の家計急変時の把握の仕方について。	保護者とも連携を取り合い、各家庭の状況を把握していく。	
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	☐ 学校保健計画を定めているか ☐ 学校医を選任しているか ☐ 保健室を整備し専門職員を配置しているか ☐ 定期健康診断を実施して記録を保存しているか ☐ 有所見者の再健診について適切に対応しているか	3 2 2 4 4	年1回、健康診断を実施。	学校医不在の為学生の健康管理について。	年1回、健康診断を行っている医療センターと連携を取り、学生の健康状況を把握していく。	健康診断記録

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	☐ 健康に関する啓発及び教育を行っているか ☐ 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか ☐ 近隣の医療機関との連携はあるか	2 1 3	体調不良の学生に関しては、近隣の病院の紹介	学生に関する健康に関する啓発活動が少ない。	東京都や台東区から郵送される、健康管理についてのポスターや手紙を学生に配布。	
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	☐ 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか ☐ 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか ☐ 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	4 4 4	学生寮の設置。 定期的に寮生と面談を行っている。	寮を専任で管理してくれる方がいない。	学生と定期的に面談を行い。問題がないか、確認。また、寮に行き様子を確認する。	学生寮規約
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	☐ クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか ☐ 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか ☐ 大会成績など実績を把握しているか		現在は、クラブ活動等行っていない。 学生から希望があった場合は、検討していく。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
奨学金制度に関しては、入学前から相談を受け充実した学生生活を送れるようサポート業務を強化している。 メンタルケアに関しては、今後どのように行っていくか職員の中で検討していく。	

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	高島 晴花
--------	-----------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	☐ 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか ☐ 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか ☐ 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか ☐ 緊急時の連絡体制を確保しているか	2 3 3 3	保護者の連絡先を把握。	保護者への報告や連携などがあまり行えていない。	文書や電話による、定期的な連絡。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学費や出席率の事など最低限の連絡は行っているが、それ以外では保護者への連絡はあまり行えていない。今後は、今まで以上に連携が取れるよう努めていく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	高島 晴花
--------	----------------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	☐ 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか ☐ 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか ☐ 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか ☐ 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	2 2 1 1	卒業後の進路調査、就職先紹介。	卒業生との交流が少ない。	現在は対面での交流は厳しい為、SNS、ホームページに学校の近況を投稿しオンライン上での交流を多くする。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	☐ 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか ☐ 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力をを行っているか	2 2	夏季・冬季年2回インターンシップを行っている。	関連企業との交流をより増加させていく。	インターンシップや特別授業の中で交流出来るよう取り組んでいく。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	☐ 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか ☐ 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか ☐ 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか ☐ 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	2 2 2 3	現在社会人学生はいないが、在籍している場合は、個別面談を行っている。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会を活発に運営出来るよう努めていく。 産学連携に関しては、現在関連企業の方に講師をお願いするなど、 少しずつではあるが、交流や連携するよう努めている。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	高島 晴花
--------	----------------	-------	-------

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設整備は計画的に行っており、特に問題はない。 新型コロナウイルス感染拡大という問題が起き、リモート授業など新しい教育環境の模索を行った。	施設整備に関し予算を組み、計画的に優先順位を決めて進めていく。	事業計画において設備投資計画を策定している。

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	☐ 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか ☐ 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか ☐ 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか ☐ 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか ☐ 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか ☐ 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか ☐ 卒業生に施設・設備を提供しているか ☐ 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか ☐ 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	3 2 2 2 2 3 2 3 3	施設、設備、機器類等は老朽化が進んでいるが、計画的に整備している。 図書室はあるが、整備は不十分である。 学生の休憩室、食事をするスペースは確保されていない。 また、バリアフリー化は進んでいない。	図書室の整備 休憩室、食堂等のスペースがない。	優先順位を決め、計画的に進める必要がある。	事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設整備は計画的に行っており、特に問題はない。 新型コロナウイルス感染拡大により、リモート授業など、新しい取り組みを行った。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	☐ 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか ☐ 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか ☐ 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか ☐ 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか ☐ 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか ☐ 学外実習等の教育効果について確認しているか ☐ 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか ☐ 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	4 3 4 4 3 3 3 3	デュアルシステムの採用により、企業実習を実施しており、実習先企業との連携も取れている。 留学生のインターシップにも取り組んでいる。 インターシップ受け入れ企業と方法を変え、有給実習や、夏季実習にも取り組んでいる。	実習先企業の確保 実習内容の企業による差をなくす。 給与体系も公平にしていきたい。 留学生インターシップの実施方法、時期、期間、受け入れ先等を変えたことによる効果の分析が課題である。	業界団体、企業、官庁と連携を図り、実習先の確保、実施方法等を検討し推進していく。	実習実施要項 協定書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
デュアルシステムの採用により、企業実習を継続的に実施しており、企業との連携も取れている。給与や労働時間含めた、実習内容の充実が課題である。 留学生のインターシップに取り組み、実習先、実習方法、時期等を変えたことによる効果の分析が課題である。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか ☐ 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか ☐ 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか ☐ 防災（消防）訓練を定期的に実施し、記録を保存しているか ☐ 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか ☐ 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	3 2 4 4 3 3	防災に対する計画体制は整備されている。 防災設備の点検維持管理は適正に行っている。 防災訓練は定期的に実施している。 建物の耐震化はできていない。	校舎の耐震化工事	校舎の耐震化に向けて、計画を進めていく。	
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 学校安全計画を策定しているか ☐ 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか ☐ 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	2 2 2	計画、防犯体制、マニュアルが整備されていない。学内の安全管理体制は不十分である。	安全管理体制の整備	計画的に安全管理体制を整備していく。 防犯カメラの設置	

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	☐ 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか ☐ 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか	3 2	危険物は特にない。 担当教員は定めているが、学外での安全管理体制は外部にゆだねている。	危険物を持ち込ませない。	周知徹底	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災に対する体制は整備され、防災訓練も実施している。学外の安全管理体制は整備されていない。校舎の耐震化工事、安全管理体制の整備が課題である。	建築設備、消防設備の定期点検を実施 防災訓練を年 1 回実施。

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本人の募集は引き続き厳しい状況であった。コロナ禍もあり、高校訪問へは思うように行けず、観光分野を希望する高校生に安心感をあたえること、他校との差別化をしっかりと高校生や教育現場に伝えることができなかった。 この様な状況でも、しっかりと高校生・先生に情報共有ができる仕組みが課題。 昨年まで増加していた留学生も、出願数が減ってしまったが、厳格な入学試験は変更せず、入学してくる留学生の質については確保をした。	コロナ禍でも、「就職に強い学校」を高校・日本語学校訪問、自校ホームページ、進路ガイダンス等でアピールすることで学生募集につなげていく。 留学生についても、引き続き「選ばれる学校」として、教育内容、学生サービスの充実を図り、募集活動を続けていく。 高校や日本語学校訪問を定期的に行い（訪問が難しい場合はオンラインや電話を活用し）、観光業界・出身学生内定情報等の提供、情報交換を行い、各学校から信頼される学校を目指す。 HP・SNS の情報更新を行い、常に進学希望者が望む情報が確認できるように整備する。	

最終更新日付

2021 年 6 月 1 日

記載責任者

小島 隆生

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	☐ 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか ☐ 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか ☐ 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	2 1 2	関東圏の公立高校を中心に進路指導部への訪問で情報提供を行う。 高校教員向け説明会は実施していない。 HP のリニューアルをし、誰でも「学校案内」にアクセスできるように整備した。	本校の強み・特徴を明確に提示し理解を得、他校との差別化を図る。 本校の新しい取り組みや方針に対する理解を図り、選ばれる学校づくり・広報活動が必要と考える。	市場研究、情報収集を基に、これからの時代にあった学校づくりや情報告知・発進ツールの活用に努め、学校改革を進めていく。	
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	☐ 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか ☐ 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか ☐ 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか ☐ 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか ☐ 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	4 4 4 4 4	ソーシャルディスタンスをしっかりとった来校型オープンキャンパス、オンライン説明会の併用で情報提供を行い対応している。 学校案内・募集要項・学校ホームページを一新し、分かり易い情報提供・告知を行っている。 データベースを利用して情報管理を整備している。	情報検索・収集・閲覧のし易さなど、効率よく利便性ある情報提供が必要。定期的な情報更新も必要と考える。 入学希望者がアクションを起こした時（HP に接触した時）に即座に対応し、来校促進を行う。	日々の授業や内定情報など、学内の日常生活などの情報発信も定期的に頻繁行うこと。 アクセス解析等分析レポートを活用し、改善に取り組む。	学校案内 募集要項 学校ホームページ

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	☐ 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか ☐ 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか	4 3	多くの方に参加いただける様に来校型だけではなく、平日のオンライン説明会も開催。 書類・筆記・面接試験を総合的に審査する。	開催を周知させ、参加を促す仕掛けが不十分であった。	HPのSEO対策、SNSでの告知、高校・日本語学校訪問での告知等を充実させ、認知をしてもらうこと。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
費用対効果の悪い業者媒体を廃止し、自校ホームページのリニューアルとSNSでの情報発信に注力し、入学確度が高い希望者の接触を図った。 コロナの影響で高校・日本語学校への直接訪問の頻度が減少してしまった。 進学希望者により情報を届けるための工夫が必要である。	学校法人高村育英会グループ校として、姉妹校と連携した募集活動始める。

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	小島 隆生
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	☐ 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか ☐ 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか ☐ 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	3 4 4	日本人はAO・推薦・一般の出願区分を設け、書類・筆記・面接審査で選考を行う。 留学生は日本語能力・経費支弁能力・学習意欲を書類・筆記・面接審査で厳格に実施。	留学生の審査においては、わかりやすい基準と徹底した審査が必要と考える。	留学生の学校説明会参加を促し、本校の教育方針やカリキュラム、入学後の学校生活をよく理解してから出願をしてもらう。	募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	☐ 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか ☐ 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか ☐ 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか ☐ 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	4 4 3 3	入学選考や入学者のデータをデータベースで管理している。 学生の学力等に応じ、授業体制やカリキュラム改善に役立てている。 資料請求者や学校説明会接触者数から入学者の見込みを算出している。 日本人・留学生の学費関連を教務・財務と連携共有し整合性を図っている。	各課担当者間のデータ照合・共有を徹底し、一元管理する体制をとっている。 市場研究も加え、より充実したカリキュラム作成に努める必要がある。また、入学後のフォローをきめ細かく行い、授業方法や内容に反映させていく必要がある。	学生情報管理システムを導入し、教務・財務・学生課における情報共有・管理体制の整備に努めているが、データ入力の正確さ、更新の徹底に努める必要がある。 教務課との連携を強化し、入学者の動向やニーズ、市場調査を反映したカリキュラムを構築する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
留学生の入学選考は、書類・面接・筆記試験と厳格に実施し、結果を伝える。評価内容の透明化し、本人はもちろん、在籍日本語学校へのフィードバックを速やかに行うことで、信頼継続を実現し、留学生から選ばれる専門学校の地位を確立したい。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	小島 隆生
--------	----------------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	☐ 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか ☐ 学納金の水準を把握しているか ☐ 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4 3 4	学納金の査定は適切に行われている。 募集要項に学納金を明示している。	学納金の提示や徴収に誤りがないようにする。	財務・教務と連携し適切に対処していく。	募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	☐ 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	適切に対処している。	入学辞退の場合の授業料返還について職員全員が共通理解をする。	情報共有に努め迅速に適切に対処していく。	募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金については適正に算定され、適切に取り扱っている。	

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
多方面での合理化により、経費の削減が実現し、財務体質は安定している。 予算の見直しを行い、適切な投資を行い、健全な学校運営を続けていく。 コロナ禍により学生数の減少が見込まれるため、厳しい状況が予想される。	日本人学生増加のため、適切な投資を行う。 留学生の継続的な入学に向け、教育環境を整備していく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	□応募者数・入学数及び定員充足率の推移を把握しているか	4	学校、学校法人の中長期的財務基盤は安定している。	安定的学生の確保	中期計画を立て、学校運営改革を進める。	事業計画書
	□収入と支出はバランスがとれているか	4				
	□貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか	4				
	□消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか	4				
	□設備投資が過大になっていないか	4				
	□負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか					
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	□最近 3 年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか	4	財務分析を行っている。	財務分析の問題解消	改革の実行	事業計画書
	□最近 3 年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	3				

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	☐ 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか ☐ キャッシュフローの状況を示すデータはあるか ☐ 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか ☐ コスト管理を適切に行っているか ☐ 収支の状況について自己評価しているか ☐ 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか	4 3 3 3 3 3	今後の財務改善計画を策定している。	財務改善計画の実施	改革の実行	事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期的財務基盤は安定している。業務の合理化、経費削減により、財務状況は改善した。さらなる改善を進めていく。	令和元年より国際観光学科、国際ホテル学科の2学科体制となる。

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	谷口 久光
--------	-----------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	☐ 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか ☐ 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	4 3	事業計画に沿った予算編成を行っている。	財務状況の改善	改革を進める。	事業計画書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	☐ 予算の執行計画を策定しているか ☐ 予算と決算に大きな乖離を生じていないか ☐ 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか ☐ 予算規程、経理規程を整備しているか ☐ 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	4 3 3 3 3	予算、計画に基づき、適正に執行されている。	財務状況の改善	改革を進める。	事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算は計画に基づき編成され、適正に執行されている。学生数はやや減少した。	

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	谷口 久光
--------	-----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	☐ 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか ☐ 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか ☐ 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか ☐ 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4 4 1 4	適切に監査を行っている。	特になし	適切な監査を続けていく。	監査報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
適切な監査を行っており、これを続けていく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか	4	校内には掲示している。またホームページに掲載し公開している。	特になし	特になし	財務諸表 ホームページ
	☐ 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか	4				
	☐ 財務公開の実績を記録しているか	4				
	☐ 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	4				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校内の掲示板に掲示し、ホームページにも掲載して公開している。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係法令、専修学校設置基準の遵守は最優先で行っており、今後も続けていく。 また、個人情報の管理も適正に行っている。 自己点検・自己評価の体制は整っており、年度ごとに実施している。	個人情報の保護管理、情報漏洩対策を徹底させていく。 自己評価の精度を向上させていく。	

最終更新日付

2021 年 6 月 1 日

記載責任者

谷口 久光

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目。	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	☐ 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか ☐ 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか ☐ セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか ☐ 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか ☐ 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4 3 3 3 3	法令、専修学校設置基準を遵守し、就業規則に基づき、適正に学校運営を行っている。	コンプライアンス意識の徹底	研究、研修を行っている	就業規則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係法令、専修学校設置基準を遵守し、就業規則に基づき、適正に学校運営を行っている。	

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	谷口 久光
--------	-----------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	対策を実施している。	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	□個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか	3	個人情報保護の対策を実施している。 学籍管理システムにより情報漏洩対策を強化している。	情報漏洩対策が完全とは言えない。	教職員の意識の啓蒙を行っていく。	
	□大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか	3				
	□学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか	3				
	□学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	3				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学籍管理システムにより、個人情報保護の対策を講じているが、完全とは言えない。教職員への指導を徹底していく。	

最終更新日付	2021年6月1日	記載責任者	谷口 久光
--------	-----------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	☐ 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ☐ 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか ☐ 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	3 3 3	自己評価体制を整備し、実施している。	適正な評価 評価結果の活用	評価の活用を進めている。	自己評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	☐ 評価結果を報告書に取りまとめているか ☐ 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4 4	報告書にまとめている。 ホームページでの公開している。	評価の精度	精度向上に努力していく	自己評価報告書
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	☐ 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ☐ 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか ☐ 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか ☐ 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	1 3 3 3	学校関係者評価はコロナ禍により取りやめた。	。		
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	☐ 評価結果を報告書に取りまとめているか ☐ 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	1 4				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価の体制は整備され、報告書にまとめており、ホームページで公開している。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	☐ 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか ☐ 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	4 3	学校概要、教育内容はホームページに公開している。	公開内容の検討	ホームページの更新	ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校情報をホームページに公開している。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
社会貢献、地域貢献、ボランティアについては、コロナ禍により活動ができなくなった。 国際交流については、毎年、十数カ国からの留学生を迎え、就職、進学など、社会に送り出している。学校の教育理念でもある、「国際教育」を実践している。	留学生の受け入れは、引き続き積極的に行っていく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	☐ 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか	2	コロナ禍により活動ができなくなった。	具体的方法を検討	産官学の連携に積極的に参加する。	
	☐ 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか	2				
	☐ 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか	1				
	☐ 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか	1				
	☐ 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか	1				
	☐ 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか	1				
	☐ 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか	1				
	☐ 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか	1				
	☐ 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	2				

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流 に取り組んでいる か	☐ 海外の教育機関との国際 交流の推進に関する方針を 定めているか ☐ 海外の教育機関と教職員の 人事交流・共同研究等を行 っているか ☐ 海外の教育機関と留学生 の受入れ、派遣、研修の実施 など交流を行っているか ☐ 留学生の受入れのため、学 修成果、教育目標を明確化 し、体系的な教育課程の編成 に取り組んでいるか ☐ 海外教育機関との人事交 流、研修の実施など、国際水 準の教育力の確保に向け取 組んでいるか ☐ 留学生の受入れを促進す るために学校が行う教育課 程、教育内容・方法等につい て国内外に積極的に情報発 信を行っているか	2 2 2 3 2 3	留学生の受け入れを積 極的に行っており、国際 交流を進めている。 海外の教育機関との連 携は取れていない。	留学生の国籍の変化 海外の教育機関との連 携方法 ニーズの変化	日本語能力の向上、ニー ズへの対応を進めてい く。 国内他校と連携して、が 海外教育機関との連携 を図る。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
留学生の積極的受け入れにより、国際交流を進めていく。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	☐ ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか ☐ 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか ☐ ボランティアの活動実績を把握しているか ☐ ボランティアの活動実績を評価しているか ☐ ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	1 1 1 1 1	コロナ禍によりボランティア活動はできなくなった。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
コロナ禍によりボランティア活動はできなくなった。	

最終更新日付	2021 年 6 月 1 日	記載責任者	谷口 久光
--------	----------------	-------	-------

4 令和2年度重点目標達成についての自己評価

令和2年度重点目標	達成状況	今後の課題
〈日本人〉入学者数の増加。	・ 大幅な減少となった。	・ 魅力ある学校づくり。 ・ コロナ禍の克服
〈留学生〉入学者数の増加、質の向上。	・ 大幅な減少となった。	・ 学生の声を反映し、満足度の高い教科運営に取り組む。
〈退学者〉減少させる。	・ 中途退学者は横ばいだった。	・ 学生満足度の向上。学生管理の徹底。
〈就職〉就職率 100%。	・ 就職内定率は低下した。	・ 就職に直結したカリキュラム作成。 ・ コロナ禍に対応した指導。 ・ インターシップの活用と、就職先レベルの向上。

